

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 10月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

児童数	(名)
計	390

## 新一万円札発行～渋沢 栄一 氏の功績～

校長 はらだ たくじ 原田 卓治

去る7月3日、渋沢 栄一氏を肖像画とする、新一万円札が発行されました。ちなみに、新五千円札は、津田梅子氏、新千円札は北里柴三郎氏です。

この三氏が紙幣の肖像となった理由は、財務省のホームページによると、「渋沢栄一氏、津田梅子氏、北里柴三郎氏は、それぞれの分野で傑出した業績を残すとともに、長い時を経た現在でも私たちが課題としている新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面からも日本の近代化をリードし、大きく貢献した方々です。三者ともに、日々の生活に欠かせず、私たちが毎日のように手に取り、目にする紙幣の肖像としてふさわしいと考えています。」ということだそうです。

渋沢氏といえば、埼玉県が誇る近代日本の礎を築いた偉人です。渋沢氏とも関わりが深い、「埼玉りそな銀行のホームページ」よりその偉業の一部を掲載します。

渋沢氏は天保11年(1840年)、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれました。家業の畑作や藍玉の製造販売、養蚕などを手伝っていましたが、後に徳川慶喜に仕え、明治維新後は大蔵省の職員となり、新しい国づくりにその辣腕を振るいました。その後、大蔵省を辞して、一民間経済人として活動を開始します。最初に着手したのが「第一国立銀行(現:みずほ銀行)」の設立です。第一国立銀行を拠点に、株式会社組織による企業の創設や育成に注力し、社会公共事業、福祉・教育機関の支援にも取り組みました(設立に関与した企業は500社を越える)。そして昭和6年(1931年)、多くの人に惜しまれつつ91歳でこの世を去りました。

渋沢氏が偉大であることは、申すまでもありませんが、中でも私は「周囲の偏見に打ち勝ち、大切なことを決して見失うことなく、志を貫いたこと」だと思います。

当時、明治維新を成し遂げていったのは、言うまでもなく武士たちです。当時、多くの武士たちは「朱子学」を重んじていたので、いわゆる「銭もうけ」をすることは武士の道から外れるという感覚を持っていたようです。従って、経済人として活動をしようとする渋沢氏に対し、多くの同僚は、その活動を支持しませんでした。

しかしながら、経済で国を富ませなければ、諸外国と渡り合っ国を成り立たすことはできないと渋沢氏は考えていたと思います。そして、その考え・行動が今の日本の礎となったのです。

渋沢氏は多くの名言を残していますが、その中に、夢七訓「幸福を得たければ、まず夢を持つべし」というものがあります。その全文は、

「夢なき者は理想なし、理想なき者は信念なし、信念なき者は計画なし、計画なき者は実行なし、実行なき者は成果なし、成果なき者は幸福なし、ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず」というものです。確固たる信念に裏付けられた「夢」を持つことの大切さを渋沢氏は教えているように思います。